各団体の活動状況及び青少年とかかわる中で感じていること（専門部会委員意見の集約）

項　　目	意　　見
青少年に 関すること	・学生はオンライン授業で生活が乱れがちであり、自宅で過ごす時間が多くなることで、家族間のストレスに晒されることもあり、自宅や学校以外の第３の居場所を増やすことが必要である ・行事や部活が２年続けて中止・制約有となっていて、長年培ってきたことが途切れることが危惧される ・いろいろなことがWEBで行えるようになった一方で、宿泊や飲食のような共に時間を過ごせば得られる経験が抜け落ちていっている ・大人と比べ、実感できる支援もなく我慢を求められることで、大人に向ける視線が批判的になっている ・子どもが参加できる施設や地域の活動などの縮小・中止が多く、自宅での自粛を余儀なくされることで、体力低下、生活リズムの乱れ等が懸念される ・従来の地域と学校と家庭を通して把握できていた青少年にかかわる問題点がコロナ禍で実態が見えにくくなり、加えて子どもの貧困並びに格差化は深刻かつ致命的な課題である
団体の活動に 関すること	・青少年健全育成運動協議会としての活動が、コロナ禍において形を変えて実施できていないが、子どもたちや保護者から、例年通りにできないことによる残念な思いを聞くことがある ・PTA協議会は、従来からの活動に加え、昨年度からのコロナ感染拡大のため、ICTを活用し、オンラインと会場を併用した会議・交流会や、YOUTUBEでの講習会ライブ配信を行っている ・ICT活用は、直接人と会うことを減らすが、家庭の用事などの調整ができ、必要に応じて使い分けるのは良い ・コロナ禍で、昨年より活動ができておらず、これまで培ってきた生徒や地域の方々とのつながりが著しく低下している ・コロナ禍ということを含め、これからの青健協のできる活動を検討したい（簡素化やインターネットを使った交流方法など） ・コロナの影響で、ほっとけんアワードについてエントリーすることができない。大規模校区では対象を限定したら小規模な活動はしにくいため、不公平のでないよう募集期間を来期まで延長してはどうか ・青少年問題協議会としては、教育委員会のみならず行政の関係機関と連携し、課題解決の対応を協議会の中で論じたい ・コロナ禍で子ども達の心のケアを必要とする事例があると聞いており、子どものSOSの発見や事前のケアが大事だと思うが、青少年指導員の見守り活動の中でそのような子どもにどこまで関わっていけるのか、どこまで踏み込んでいけるかが課題 ・青少年指導員の高齢化が進んでおり、若い世代の人材確保、育成が課題 ・コロナ拡大防止の対策をとり、子ども会活動を停止せず、できることから実施しようと各小学校区の育成者は取り組んでいる。地域の夏祭りの代わりとなる子どもが楽しめる催しを考えている校区もある ・市が主催する行事への積極的な参加も考えており、ジュニアリーダーキャンプには予想を超える申し込みがあった。子どもたちも楽しみにしている
青少年に係る 社会情勢	・学校でのWEB環境整備は一定進んでいるが、家庭でのWEB環境には保護者の感覚、貧富の違いによる影響が顕著に見られる ・生活保護や非課税世帯を対象としたWEB環境の整備・維持費や、青少年活動・部活動等の再開時について、施設や宿泊施設の優先使用や補助が必要 ・修学旅行・校外学習、体育系・文科系を問わず、青少年活動をする場所の確保に苦心している様子がある ・大阪府下の大麻による検挙・補導人員数は急増し、令和２年度には１１４人が検挙され、全国最多となるなど、深刻な状況。インターネット等で「大麻はたばこより害が少ない」といった誤った情報が溢れ、それを鵜呑みにして興味本位で使用することや、SNS等を通じて、安易に入手できることが要因。若年層をはじめ、社会の意識改革につながる啓発活動を強化していく必要がある